

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	群馬大学
設置者名	国立大学法人群馬大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科等名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数			省令で定める基準単位数	配置困難
			教養教育科目	専門科目	合計		
共同教育学部	学校教育教員養成課程	夜・通信	17	67	84	13	
情報学部	情報学科	夜・通信	21	64	85	13	
医学部	医学科	夜・通信	19	113	132	19	
	保健学科 看護学専攻	夜・通信	19	92	111	13	
	保健学科 検査技術科学専攻	夜・通信	19	66	85	13	
	保健学科 理学療法学専攻	夜・通信	19	72	91	13	
	保健学科 作業療法学専攻	夜・通信	19	82	101	13	
理工学部	物質・環境類	夜・通信	17	21	38	13	
	電子・機械類	夜・通信	17	18	35	13	
(備考)							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	群馬大学
設置者名	国立大学法人群馬大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out002/g1708>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	国立大学法人 岩手大学 副学長・事務局長	1年 (R8.4.1～ R9.3.31)	総務・財務担当
非常勤	なし(元 群馬県生活文化スポーツ部長)	2年 (R7.4.1～ R9.3.31)	学長特命担当(男女 共同参画・ダイバー シティ)
非常勤	公益財団法人 群馬県 産業支援機構 群馬県 プロフェッショナル人 材戦略拠点マネージャ ー	2年 (R7.4.1～ R9.3.31)	学長特命担当(産学 連携)
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	群馬大学
設置者名	国立大学法人群馬大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
各学部の授業科目を担当する教員は、『シラバス入力ガイドライン』に基づき、当該授業科目の授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等を教務システムから Web 入力によりシラバスを作成している。 なお、『シラバス』は、授業開講年度の4月にホームページに掲載し公表している。	
授業計画書の公表方法	https://www.kyomu-sys.gunma-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
各学生の学修成果に基づき、シラバスに記載した授業評価方法及び関連するディプロマ・ポリシーにより、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 『G P A制度及び履修取消し制度に関する申合せ』により、全学的に統一した算定方法等を定め、客観的な指標であるG P Aを設定するとともに、ホームページに掲載し公表している。 この申合せにより算定したG P Aの分布状況を把握し、成績評価を適切に実施している。 [G P A算出式] $G P A = \frac{(S \text{の単位数} \times 4 + A \text{の単位数} \times 3 + B \text{の単位数} \times 2 + C \text{の単位数} \times 1 + D \text{の単位数} \times 0)}{\text{登録総単位数}}$	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.gunma-u.ac.jp/wp-content/uploads/2021/06/f89744e07567df4a92c273f28d5a91ba.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) <卒業認定・学位授与の条件> 1. 以下の学修達成目標及び所属する学部・学科・課程が定める学位授与の要件を満足していること。 2. 所定の年限在学し、かつ所属する学部・学科・課程が定める単位を修得していること。 <学修成果の目標> 専門的学識、技能 1. 所属する学部・学科・課程の専門分野において求められる専門的学識・技能を修得し、現実の諸課題に対してその活用ができる。 幅広い教養、学際性 2. 人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。 論理的思考力、コミュニケーション力 3. 論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。 社会人としての自覚、国際性 4. 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。 上記の全学ディプロマ・ポリシーのほか、各学部のディプロマ・ポリシーや学生の修得単位数等を踏まえ、卒業判定会議（教授会等）において、適切に卒業を認定している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902/g2087#g001

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	群馬大学
設置者名	国立大学法人群馬大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out007/g1894
収支計算書又は損益計算書	https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out007/g1894
財産目録	—
事業報告書	https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out007/g1894
監事による監査報告(書)	https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out007/g1894

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 第4期中期目標・中期計画対象年度: 令和4年度～令和9年度)
公表方法: https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out006/g1850

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out006/out006_001/g1792

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 共同教育学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/wp-content/uploads/2025/06/education_research_purpose202504.pdf ）
（概要） 本学部は、宇都宮大学との共同教育課程を通じ、双方の強みを相互に活用して、新しい時代の要請に応える質の高い教員養成カリキュラムを開発・編成し、優れた人格と豊かな教養、高い実践力を持った地域の初等・中等及び特別支援教育の教員を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3001 ）
（概要） ＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞ 群馬大学の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、共同教育学部では、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力、豊かな人間性と、以下のような専門分野に関する知識・技能を獲得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。 ＜学修成果の目標＞ 1 学校教育や教職についての基礎理論・知識を修得し、教師としての使命感を持って子どもに接することができる。 2 子ども理解や学習集団形成のための必要な知識を修得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個に応じた指導ができる。 3 教科及び教育課程に関する知識・技能を持ち、子どもの実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 4 現代社会における教育に関する様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し、探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 5 他者を尊重し、多様なステークホルダーと協働して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3001 ）
（概要） ＜教育の目標＞ 1 学校教育の基礎となる各種の理論を学び、教師としての資質を向上させる教育 2 各教科についての専門的知識・技能を高め、子どもを指導するための基礎となる能力を獲得する教育 3 各教科について子どもが学ぶ意義を理解し、各教科の指導方法の理論に基づいて実践的指導力の基礎を修得する教育 4 教育実習において学校現場で子どもを指導するなどの体験を通して、実践的指導力を高める教育 ＜教育課程の構成＞ 1 学士力を育成し、幅広く深い教養、総合的な判断力、豊かな人間性を涵養するために、初年次を中心に編成された教養基盤科目、教養育成科目を開設します。 2 教師としての基礎的素養と専門性を身につけさせるために、以下の専門科目を開設します。 【教育基礎科目】 教育の理念・歴史・思想、教職の意義、教育課程、子どもの発達や学習の過程、教育の制度など、教育の基礎理論に関する内容について学ばせる。

【教育展開科目】 所属専攻の専門科目の内容及び指導法等に関して深い学識を身につけさせる。 【小学校教科及び指導法】 小学校における各教科の内容及び指導法に関して深い学識を身につけさせる。 【教育実践科目・総合教職科目】 小学校及び中学校や特別支援学校における教育実習を通して実践的指導力を養うと共に、教育現場に求められる協働して課題解決に取り組む姿勢を身につけさせる。 【forefront 科目】 学校教育における現代的ニーズへの見識と方法及び技術について学ばせる。 3 教職への使命感・責任感・教育的愛情、社会性や対人関係能力、子ども理解や学級経営等、教科内容等の指導力にかかわる資質・能力を確たるものにさせるために、「教職実践演習」を開設します。 4 教養と専門的知識を総合し、主体的に課題解決に取り組むことができる豊かな思考力を身につけさせるために、「卒業研究」を開設します。 ＜教育内容・方法＞ 1 講義科目では、アクティブラーニングを適宜組み込んだ対話型の授業を通し、教育全般及び各専門分野に関する幅広い知識を得るとともに、資料を収集・分析・考察し、その結果を的確かつ論理的に構成・表現する能力を身につける教育を展開します。 2 演習科目では、グループワークやフィールドワークなどを通じて学修を行うとともに、各人が口頭発表を行うことで、主体的に課題探究を進めるための専門的知識や実践力、ならびに修得した知識を効果的に活用する能力を身につける教育を展開します。 3 実験・実習・実技科目では、各専門分野に関する知識や技能を基礎とした協働的な学修を通して実践的能力や指導力を身につける教育を展開します。 ＜学修成果の評価＞ 学修成果の評価は、成績評価基準に基づいて行います。
入 学 者 の 受 入 れ に 関 す る 方 針 （ 公 表 方 法 ： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3001） （概要） ＜人材育成の目標＞ 本学部は、優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。（全専攻共通） ＜入学者に求める能力・資質＞ 本学部は、次のような人の入学を歓迎します。 1 高等学校における履修内容を理解し、教職を目指すために必要な基礎学力を身に付けている人 2 自己の考えを的確に表現し他者に伝えることができ、他者が表現する考えを受けとることができる人 3 ものごとを複数の視点から考察し、自ら判断することができる人 4 「学ぶ」「教える」「育てる」「発達する」という行為・現象について関心があり、これらのことについて学修意欲のある人 5 様々な活動に主体的に取り組むことができるとともに、他者と協働することができる人 6 教職を目指す明確な意志と情熱を有し、子どもの成長に関わることに喜びを感じられる人 ＜入学者選抜の基本方針＞ 本学部は上記素養を持つ学生を選抜するために、共通して行う入学者選抜方法では、次のような入学試験を実施します。

○一般選抜 前期日程

(実施専攻：国語専攻、社会専攻、英語専攻、数学専攻、理科専攻、技術専攻、音楽専攻、美術専攻、家政専攻、保健体育専攻、教育専攻、教育心理専攻、特別支援教育専攻)

- 1、2に対しては大学入学共通テストを課します。2～6に対しては面接を課するとともに、調査書を面接時の参考資料として利用します。
- ・(人文社会系、芸術・生活・健康系、教育人間科学系のみ) 2～4に対しては小論文を課します。
 - ・(自然科学系のみ) 1～3に対しては小論文を課します。
 - ・(音楽専攻のみ) 1に対しては楽典及び実技を課します。
 - ・(美術専攻のみ) 1～3に対しては実技を課します。
 - ・(保健体育専攻のみ) 1に対しては実技を課します。

○総合型選抜

(実施専攻：社会専攻、数学専攻、理科専攻、技術専攻、音楽専攻)

- 1～6に対しては面接を課するとともに、調査書等出願書類を参考資料として総合的に判定します。
- ・(技術専攻のみ) 1～2に対しては大学入学共通テストを課します。
 - ・(社会・技術専攻のみ) 2～4に対しては小論文を課します。
 - ・(音楽専攻のみ) 1に対しては実技を課します。
 - ・(数学・理科・技術専攻のみ) 1～6に対してはプレゼンテーションを課します。

○学校推薦型選抜

(実施専攻：国語専攻、社会専攻、英語専攻、数学専攻、理科専攻、技術専攻、音楽専攻、美術専攻、家政専攻、保健体育専攻、教育専攻、教育心理専攻、特別支援教育専攻)

- 1～6に対しては面接を課するとともに、調査書等出願書類を参考資料として総合的に判定します。
- ・(数学専攻のみ) 1、2に対しては大学入学共通テストを課します。
 - ・(数学・理科・音楽・美術専攻を除く専攻) 2～4に対しては小論文を課します。
 - ・(理科専攻のみ) 1～3に対しては小論文を課します。
 - ・(音楽専攻のみ) 1に対しては実技を課します。
 - ・(美術専攻のみ) 1～3に対しては実技を課するとともに、1、2に対しては美術活動調査書を課します。
 - ・(保健体育専攻のみ) 1に対してはスポーツ活動調査書を課します。

○私費外国人留学生選抜

(実施専攻：国語専攻、社会専攻、英語専攻、数学専攻、理科専攻、技術専攻、音楽専攻、美術専攻、家政専攻、保健体育専攻、教育専攻、教育心理専攻、特別支援教育専攻)

- 1～4に対しては日本留学試験を課します。また、日本留学試験では、日本語での大学教育を受けられる日本語能力を身に付けているかどうかを判断します。
- 2～6に対しては面接を課します。また、1に対しては成績証明書等を参考資料とします。
- ・(人文社会系、芸術・生活・健康系、教育人間科学系のみ) 2～4に対しては小論文を課します。
 - ・(自然科学系のみ) 1～3に対しては小論文を課します。
 - ・(音楽専攻のみ) 1に対しては楽典及び実技を課します。
 - ・(美術専攻のみ) 1～3に対しては実技を課します。
 - ・(保健体育専攻のみ) 1に対しては実技を課します。

○帰国生選抜

(実施専攻：社会専攻、数学専攻、理科専攻、美術専攻、特別支援教育専攻)

- 1～6に対しては面接を課するとともに、出願書類(成績証明書・調査書、身上記録書等)

を加え、総合して判定します。

- ・（社会・特別支援教育専攻のみ）２～４に対しては小論文を課します。
- ・（理科専攻のみ）１～３に対しては小論文を課します。
- ・（美術専攻のみ）１～３に対しては実技を課するとともに、１、２に対しては美術活動調査書を課します。

<入試に係る取組・改善状況について>

- (1) 全ての専攻において、一般選抜後期日程を廃止した。
- (2) 社会・数学・理科・技術・音楽の各専攻において、新たに「総合型選抜」を導入した。
（このうち、技術専攻のみにおいて大学入学共通テストの受験を課した。）
- (3) 家政専攻において、新たに「学校推薦型選抜」を導入した。
- (4) 数学専攻の「学校推薦型選抜」において、小論文を廃止し、新たに大学入学共通テストの受験を課した。
- (5) 上記(1)～(3)の変更に伴い、一部の専攻において、学校推薦型選抜及び一般選抜前期日程の募集人員を変更した。

学部等名 情報学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/wp-content/uploads/2025/06/education_research_purpose202504.pdf ）
（概要） 本学部は、高度情報化社会において、情報と結びつく多様な分野を融合した学問体系としての情報学の創造に基づいて、情報技術の創出と利活用を可能とする知識基盤を備え、持続可能でインクルーシブな社会の発展と課題解決に寄与できる人材を養成し、地域社会や国際社会に貢献することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3002 ）
（概要） ＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞ 本学部では、所定の年限在学し、かつ全学のディプロマ・ポリシーを踏まえた上で、教養教育科目、本学部で定めた必修科目、選択科目、PBL科目、ゼミナール、卒業研究の所定の単位を修得し、専門的学識、技能に関して、以下の資質を身に付けたと認められる者に対して学士（情報学）の学位を授与します。 ＜学修成果の目標＞ 1. 現代情報社会の諸問題の根幹と先端的な情報科学の特性を理解し、人間中心社会に向けて社会課題解決に統計学や情報技術を活用することができる。 2. データをもとに具体的な社会組織や制度を改良する提案ができる能力を持つ。 3. 構想される社会目標の達成のためのデータの収集と実証的な検証をする能力を修得する。コミュニケーション能力をもとにデータサイエンスの結果を社会実装するための提案ができる。 4. 人工知能やIoTを含む先端技術の創出と利活用の知識基盤を備えている。 さらに、各プログラムにおいては以下の専門的学識や能力を修得していることを目標とする。 1. 人文情報プログラムにおいては、現代情報社会の諸問題の根幹と先端的な情報科学の特性を理解し、人間中心社会の構想を提示する能力 具体的には、次のとおりです。 ・人文科学的知見を活用して高度情報化社会における課題を探索する能力 ・高度情報化社会における課題解決のための実践的理念を提供する能力 2. 社会共創プログラムにおいては、持続可能な包摂型社会の実現に向けた課題解決を、具体的な社会組織や制度の設計・構築と検証によって図ることができる能力 具体的には、次のとおりです。 ・高度情報化によるシステム（制度）の変化について、社会科学的知見を活用して課題を発見する能力 ・社会的課題の解決及び社会目標の達成のためのシステム（制度）の構築や方策を提案できる能力 3. データサイエンスプログラムにおいては、社会的課題に関わるデータの適切な収集、その科学的分析による問題の定式化・解決策を提示する能力 具体的には、次のとおりです。 ・社会的課題の実証的定式化と数理最適化による解決策を提示する能力 ・構想される社会目標の達成のためのデータの収集と実証的な検証をする能力 4. 計算機科学プログラムにおいては、計算機を利用するための基礎知識を身に付け、論理的思考により科学、工学に関する問題に応用する能力 具体的には、次のとおりです。 ・計算や情報を視点とした情報科学の数学理論を身につけ、応用する能力

・ 計算機の構造と原理、計算機による効率的な計算の方法及び計算機システムの基礎知識を身につけ、それらに関する技術を開発する能力 ・ 計算機に推論や認識などの知的機能を実現するための理論を身につけ、その技術を開発する能力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3002）
（概要） <教育の目標> 全学的な協力体制の下、教養教育と専門教育の融合を図り、幅広く深い教養、豊かな知性と感性、総合的な判断力、専門分野の基礎的能力を育成するため、学生の潜在能力を最大限引き出せる教育 <教育課程の構成> 全学のディプロマ・ポリシーの専門的学識・能力に対応して、次の方針に従って教育課程を教育プログラムとして体系的に編成し、実施します。 1. 初年次は、人文科学、社会科学、自然科学および外国語教育などの教養教育科目により、全学部共通の豊かな人間性と広い見識を持つことの重要性を理解し、コミュニケーション能力により国際的に活躍するための基本素養を身に付けさせる。また、数理・データサイエンスに関しても統計学的基礎を身に付けさせ、その後の4プログラムの学習の基礎となる知識とスキルを身に付けさせる。4プログラムのそれぞれの特徴を理解し、2年目から各プログラムの専門性を重視した教育を行うため、学部基盤共通科目として文化・社会・倫理的諸問題と社会組織や制度の設計・構築のための基本的知識と統計学・情報技術の基本的スキルを身に付けさせる。 2. 2年次以降は、教育プログラムの目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。また、この専門教育を補う形で、選択したプログラムとは異なるプログラムの基礎的な科目の教育を行い、分野横断の幅広い専門知識の獲得を目指す教育を行う。 3. 3年次以降は主に融合型PBL、ゼミナールおよび卒業研究などによりアクティブ・ラーニングを実践する教育を行う。 なお、4つの教育プログラムにおいて、それぞれ次のような教育を行うことで、高度情報化社会において情報を基軸としてあらゆる分野で活躍するための専門能力を修得させる。 <教育内容・方法> 1. 人文情報プログラムにおいては、ソーシャルメディア論、コミュニケーション論、理論社会学、社会心理学、言語メディア論などを網羅した体系的なカリキュラムを通じて、現代情報社会の諸問題の根幹と先端的な情報科学の特性を理解させる教育を実施する。これにより、人間中心社会の構想を提示できる人材を育てる教育を展開する。 2. 社会共創プログラムにおいては、政策情報論、情報政治論、情報法、環境法、経営組織論などを網羅した体系的なカリキュラムを通じて、情報技術を用いた社会組織や制度を設計し、構築する能力を身に付けられる教育を実施する。これにより、設計し、構築した社会組織や制度を、グローバルに実現し得る人材を育てる教育を展開する。 3. データサイエンスプログラムにおいては、統計学、機械学習、数理最適化、データマイニング、シミュレーションなどを網羅した体系的なカリキュラムを通じて、課題に対して適切なデータの収集能力・分析能力を身に付けられる教育を実施する。これにより、その課題を数理的に定式化し、解決策の導出ができる人材を育てる教育を展開する。 4. 計算機科学プログラムにおいては、計算機システム、情報ネットワーク、オペレーティングシステム、画像処理など情報科学の基礎理論から応用技術までを網羅した体系的なカリキュラムを通じて、情報科学に関連した幅広い基礎知識を身に付けられる教育を実施する。これにより、課題解決のための論理的思考に基づいた応用力と倫理観を備え、科学技術の発展にグローバルに貢献できる人材を育てる教育を展開する。

<学修成果の評価> 学修成果の評価は、成績評価基準に基づいて行います。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3002）
（概要） <人材育成の目標> 人工知能（AI）やIoTを含む先端技術の創出・利活用を可能とする知識基盤を備え、人文科学・社会科学の知見から情報社会における課題を発見し、情報科学とデータサイエンスの知識を総合することで、持続可能でインクルーシブな社会（Society5.0）の発展と課題解決に寄与できる人材の育成を目指す。 <入学者に求める能力・資質> 群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求める。 1. 高等学校の教育課程についての総合的な理解と大学教育を受けるにふさわしい基礎学力がある人 2. 情報学を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探求心、コミュニケーション能力を持っている人 3. 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人 4. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人 5. 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている人 6. 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている人 <入試に係る取組・改善状況について> 一般選抜や学校推薦型選抜はもとより、総合型選抜（iTFL 入試、外国人生徒等入試）、帰国生選抜、社会人選抜、私費外国人留学生選抜及び第3年次編入学試験といった多様な入試方法を実施することにより、多様な能力や背景を持った入学者の獲得に努めている。

学部等名 医学部医学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/wp-content/uploads/2025/06/education_research_purpose202504.pdf ）
（概要） 医学科は、医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽を続けることができる学生の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3003 ）
（概要） ＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞ 所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。 ＜学修成果の目標＞ 医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽を続けることができる者 具体的には、次のとおりです。 1 医師にふさわしい倫理観と責任感を有し、医療チームの中で医師として適切な行動をとることができ、他者と信頼関係を築ける者 2 医師、医学研究者、医学教育者又は医療行政担当者となるために必要な知識を身に付けるとともに、新たな課題にも対応できる問題解決能力を修得した者 3 医学知識に裏打ちされた臨床と研究の能力を修得し、患者により良い医療を提供する能力と、医学や医療の発展に貢献する意欲を備えた者
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3003 ）
（概要） ＜教育の目標＞ 医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽する力がつく教育 1 自分をふりかえり他者を思いやる心が育ち、コミュニケーションを通して相互理解を図る態度が身につく教育 2 自然科学、医学、医療、人間と社会に関わる知を習得し、それを実践でいかす力が身につく教育 3 新たな課題にも対応できる問題解決能力が身につき、リサーチマインドが育つ教育 4 生涯にわたって社会貢献と自己研鑽に努める意欲が育つ教育 ＜教育課程の編成＞ 1 教養教育科目では幅広く深い教養、総合的な判断力、自然との共生を基盤とした豊かな人間性を涵養する。 2 専門教育科目では、講義と実験、実習を通して医師、医学系研究者、医療行政担当者として社会に貢献するために必要となる知識、技能、態度を身につけさせる。 3 臨床実習では、共用試験に合格し、Student Doctorと認定された学生が実践的な知識と技能を学ぶとともに、医師にふさわしい態度を身につけさせる。 4 6年間を通して、医療安全、医療倫理、多職種連携の学修機会を提供する。 5 カリキュラムツリーやカリキュラムマップを用いて、教育課程の体系的な構造を明示するとともに、各科目の教育内容をシラバスに詳述する。 ＜教育内容・方法＞ 1 教養教育科目および専門教育科目では、能動的学修を取り入れて深い教養、総合的な判断力、自然との共生を基盤とした豊かな人間性を涵養する。

2 人間科学科目では、講義、実習に加えて、体験型、討論型授業を取り入れ、自分をふりかえり他者を思いやる心が育ち、相互理解を図る態度を身につく教育を行い、医師になろうとする者に必要な、知識と技能だけでなく基本的な素養を身につけさせる。 3 生命医学科目、臨床医学科目、臨床医学講義・演習では、講義、演習、実習に加えてグループ学習を取り入れ、医師になろうとする者に必要な、知識と技能、新たな課題にも対応できる問題解決能力を身につけさせる。 4 臨床医学実習では、チーム医療実習や臨床実習で医学、医療、人間と社会に関わる知識と技能及び医師としての素養を身に付け、実践でいかす力を身につけさせる。 ＜学修成果の評価＞ 1 学修成果の評価は、成績評価基準に基づいて評価する。 2 科目単位の評価と併せ、アウトカムに基づき医学生として求められる資質・適性・能力についても評価を行う。 3 4年次に全国共通の学修到達度評価である共用試験を実施し、診療参加型臨床実習に参加するための知識・技能・態度について評価する。 4 6年次に診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験を実施し、総合的臨床能力について評価する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3003） （概要） 医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることをふまえ、医学生として、科学的知（Science）、倫理（Ethics）、技能（Skill）の3つの面にわたって自己研鑽に励むことができる人 1 豊かな感受性、奉仕の精神を備え、医師としてふさわしい資質を身に付けることを目指して、不断の努力を積み重ねられる人 2 医療、医学研究、医学教育もしくは医療行政などの分野において、社会に貢献することへの志と強い信念を持っている人 3 本学科の教育内容を理解するために必要な総合的基礎学力を十分に備えている人 ＜入試に係る取組・改善状況について＞ 群馬県の医師不足解消のため、群馬県と連携しながら、学校推薦型選抜、一般選抜（前期日程）、第2次編入学試験において「地域医療枠」を設けている。

学部等名 医学部保健学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.gunma-u.ac.jp/wp-content/uploads/2025/06/education_research_purpose202504.pdf） （概要） 保健学科は、群馬大学の理念等に基づき、人間の尊厳と倫理観を重んじ、多様性を尊重する姿勢を備えた、社会で活躍できる者であって、次の各号に掲げるリーダー人材の育成を目的とする。 1. 豊かな人間性、高度な専門知識に加え、他分野との協働を通じてヘルスサイエンスの発展に貢献する次世代のリーダー 2. 「全人的医療」「多職種連携」を重視し、地域社会や国際社会に貢献する人材
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3004） （概要） ＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞ 所定の年限在学し、所定の単位を取得した上で、各専攻のディプロマ・ポリシーが定める学識と能力を身につけた以下のような者に学士の称号を授与します。 ＜学修成果の目標＞ 1. 保健医療の中核を担うために、高度な専門知識と技術を備える者【高度な専門知識と技術】 2. 人間の尊厳と倫理観を重んじ、全人的医療に貢献できる者【倫理観】 3. 保健医療の様々な課題について、情報を的確に収集・分析し、柔軟な思考と判断で課題解決する能力を持つ者【問題発見・課題解決能力】 4. 多職種連携と医療安全に責任を持ち、関係する人々と相互理解と信頼関係を築ける者【協働力】 5. グローバルに対応できるコミュニケーション力を持ち、地域・国際保健に貢献できる能力を持つ者【グローバルな対応力】 6. 自らの将来像を見据えて自己研鑽し、リーダーシップを発揮する能力を持つ者【リーダーシップと自己研鑽力】
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3004） （概要） 知性と倫理観を備えた人間性豊かな保健学の実践者・教育者・研究者のリーダーの育成を目指し、次のような教育を行います。 1. 保健医療の中核を担うために、高度な専門知識と技術を備える人材を育成する教育【高度な専門知識と技術】 2. 人間の尊厳と倫理観を重んじ、全人的医療に貢献できる人材を育成する教育【倫理観】 3. 保健医療の様々な課題について、情報を的確に収集・分析し、柔軟な思考と判断で課題解決する能力を育成する教育【問題発見・課題解決能力】 4. 多職種連携と医療安全に責任を持ち、関係する人々と相互理解と信頼関係を築ける人材を育成する教育【協働力】 5. グローバルに対応できるコミュニケーション力を持ち、地域・国際保健に貢献できる能力を育成する教育【グローバルな対応力】 6. 自らの将来像を見据えて自己研鑽し、リーダーシップを発揮する能力を育成する教育【リーダーシップと自己研鑽力】
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g3004）

(概要)

＜入学者に求める能力・資質＞

群馬大学及び保健学科の理念と教育目標に賛同し、本学の教職員と共に地域社会や国際社会で未来を切り拓く保健学の実践者・教育者・研究者のリーダーになる意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求める。

1. 高等学校の教育課程についての総合的な理解と大学教育を受けるにふさわしい基礎学力がある人
2. 新しい課題を見つけ主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
3. 全人的医療に貢献するために人間の尊厳と倫理観を重んじられる人
4. 多職種連携と医療安全に貢献できるコミュニケーション能力を持っている人
5. 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている人
6. 地域社会や国際社会に貢献する意欲を持つ人

学部等名 理工学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/wp-content/uploads/2025/06/education_research_purpose202504.pdf ）
（概要） 本学部は、人類が進むべき新たな指針を見だし、人と自然との調和のとれた豊かな未来社会を創造するため、高い専門的能力と健全な理念を持ち、地域・社会、日本、そして世界に貢献できる人材を育成することを目的とする。 目的を達成するため、学生と教員との緊密なつながりを基本として、次の各号に掲げる教育を行うものとする。 (1) 幅広い教養、豊かな人間性、社会的倫理観を獲得する教育 (2) 論理的思考力、国際コミュニケーション能力、および社会の中で活躍できる実践的能力を獲得する教育 (3) 理工学の基礎を総合的に俯瞰した知識を習得し、それを活用する能力を獲得する教育 (4) 理工学における自身の専門分野の知識を習得し、それを活用する能力を獲得する教育 (5) 理工学の基礎知識と自身の専門知識を用いて、未知の探求、新たな創生、諸課題の解決を行い得る能力を獲得する教育
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g212584 ）
（概要） <学位授与の条件・達成度・能力評価の基準> 所定の年限在学し、かつ教育プログラムの定める所定の単位を修得することで、下記の<学修成果の目標>を達成した者に学士（理工学）の学位を授与します。 <学修成果の目標> 1. 人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。 2. 論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。 3. 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。 4. 理工学の基礎を総合的に俯瞰した知識と、それを活用する能力を修得している。 5. 理工学における自身の専門分野の知識と、それを活用する能力を修得している。 6. 未知なるものの探求、新たなものの創生や諸課題の解決に、継続的かつ計画的に、他者と協働して取り組める。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g212584 ）
（概要） 1. 幅広い教養、豊かな人間性、社会的倫理観を獲得する教育 2. 論理的思考力、国際コミュニケーション能力、および社会の中で活躍できる実践的能力を獲得する教育 3. 理工学の基礎を総合的に俯瞰した知識を習得し、それを活用する能力を獲得する教育 4. 理工学における自身の専門分野の知識を習得し、それを活用する能力を獲得する教育 5. 理工学の基礎知識と自身の専門知識を用いて、未知の探求、新たな創生、諸課題の解決を行い得る能力を獲得する教育
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/admission/g3000/g212584 ）
（概要） 群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元

し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人

1. 高等学校での学修内容についての総合的な理解と大学教育を受けるにふさわしい基礎学力がある。
2. 理工学を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探究心、コミュニケーション能力を持っている。
3. 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている。
4. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある。
5. 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている。
6. 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている。

さらに、物質・環境類の教育プログラムを選択しようとする者は、特に理科に関心があることが望まれる。また、電子・機械類の教育プログラムを選択しようとする者は、物理学、数学及び化学に関心を持っていることが望まれる。

<入試に係る取組・改善状況について>

・情報学部を核としたデータサイエンス教育の強みを活かし、プログラミング等の高度な情報スキルを持つ高校生を対象とした iTFL (Information Technology Frontier Leader) 入試を実施した。

・日本国内の高校や外国人学校で学び、多様な文化的背景を持つ外国籍生徒の受入れを促進するための新たな総合型選抜である外国人生徒等入試を実施した。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out002/g1703#kyouiku>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	5 人	－					5 人
共同教育学部	－	27 人	37 人	6 人	0 人	0 人	70 人
大学院情報学研究科 （情報学部）	－	19 人	18 人	0 人	4 人	2 人	43 人
大学院医学系研究科 （医学部医学科）	－	39 人	30 人	19 人	54 人	0 人	142 人
大学院保健学研究科 （医学部保健学科）	－	28 人	12 人	2 人	21 人	0 人	63 人
理工学府（理工学部）	－	63 人	53 人	0 人	31 人	0 人	147 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		622 人					622 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://rdb.gunma-u.ac.jp/search/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
全学の取組としては、毎年外部講師を招聘し、全学F D連続講演会「大学教育のグランドデザイン」を実施しているほか、平成 19 年度から教員の意欲向上及び大学教育の活性化を図ることを目的として「ベストティーチャー賞」の表彰を実施しており、学長賞受賞者が行う模擬授業を、F Dとして教員に公開している。							
また、学部等においても教育技術向上や認識共有を目的として、各学部固有の特性に配慮したF Dを実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
共同教育学部	190 人	201 人	105.8%	760 人	838 人	110.3%	—	—
情報学部	170 人	187 人	110.0%	700 人	771 人	110.1%	10 人	7 人
医学部医学科	110 人	110 人	100.0%	727 人	769 人	105.8%	15 人	15 人
医学部保健学科	160 人	160 人	100.0%	660 人	649 人	98.3%	10 人	1 人
理工学部	470 人	514 人	109.4%	1,926 人	2,075 人	107.7%	23 人	27 人
合計	1,100 人	1,172 人	106.5%	4,773 人	5,127 人	107.4%	58 人	50 人
（備考） ・割合は、小数点第 2 位を四捨五入								

b. 卒業者数、修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
共同教育学部	184 人 (100%)	9 人 (4.9%)	168 人 (91.3%)	7 人 (3.8%)
情報学部	151 人 (100%)	36 人 (23.8%)	111 人 (73.5%)	4 人 (2.6%)
医学部医学科	116 人 (100%)	1 人 (0.9%)	114 人 (98.3%)	1 人 (0.9%)
医学部保健学科	157 人 (100%)	31 人 (19.7%)	122 人 (77.7%)	4 人 (2.5%)
理工学部	490 人 (100%)	314 人 (64.1%)	162 人 (33.1%)	14 人 (2.9%)
合計	1,098 人 (100%)	391 人 (35.6%)	677 人 (61.7%)	30 人 (2.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進路状況・産業別就職情報 http://www.gunma-u.ac.jp/career/car005/g2077 卒業生の就職先 http://www.gunma-u.ac.jp/career/car005/g2079				
(備考) 割合は、小数点 2 位を四捨五入しており計は必ずしも一致しない				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
共同教育学部	203 人 (100.0%)	174 人 (85.7%)	25 人 (12.3%)	4 人 (2.0%)	0 人 (0.0%)
情報学部	171 人 (100.0%)	141 人 (82.5%)	23 人 (13.5%)	7 人 (4.1%)	0 人 (0.0%)
医学部 医学科	112 人 (100.0%)	82 人 (73.2%)	29 人 (25.9%)	1 人 (0.9%)	0 人 (0.0%)
医学部 保健学科	162 人 (100.0%)	153 人 (94.4%)	7 人 (4.3%)	2 人 (1.2%)	0 人 (0.0%)
理工学部	488 人 (100.0%)	404 人 (82.2%)	59 人 (12.1%)	25 人 (5.1%)	0 人 (0.0%)
合計	1,136 人 (100.0%)	954 人 (84.0%)	143 人 (12.6%)	39 人 (3.4%)	0 人 (0.0%)
(備考) 情報学部は社会情報学部及び理工学部の一部を改組して R3 年 4 月に設置した。 割合は、小数点 2 位を四捨五入しており計は必ずしも一致しない。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

各学部の授業科目を担当する教員は、「シラバス入力ガイドライン」に基づき、当該授業科目の授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等について、教務システム（Web入力）によりシラバスを作成している。

なおシラバスは、授業開講年度の4月にホームページにおいて公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

各学生の学修成果に基づき、シラバスに記載した成績評価基準（授業評価方法）により、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
共同教育学部	—	1 4 0 単位	有	3 0 単位 / 学期
情報学部	情報学科	1 2 4 単位	有	4 6 単位 / 年
医学部	医学科	1 9 1 単位	有	3 0 単位 / 学期
医学部	保健学科	1 2 5 単位	有	3 0 単位 / 学期
理工学部	物質・環境類	1 2 4 単位	有	2 7 単位 / 学期
理工学部	電子・機械類	1 2 4 単位	有	2 7 単位 / 学期
G P Aの活用状況（任意記載事項）		https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
共同教育学部	—	535,800 円	282,000 円	円	
情報学部	情報学科	535,800 円	282,000 円	円	
医学部	医学科 保健学科	535,800 円	282,000 円	円	
理工学部	物質・環境類 電子・機械類	535,800 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生が入学してから卒業するまでの間、学生生活全般にわたり、大学教育・学生支援機構（学務部）と各学部等が相互に連携しながら学生をサポートする体制を構築している。 また、教務システムにより、web（インターネットに接続されたパソコン、携帯電話、スマートフォン等）から授業に関することをはじめ、試験日程、授業料免除、奨学金等の修学や学生生活に関わる重要な情報を確認することができる。 ポートフォリオシステムを活用し、学生に対して担任（チューター）教員が学修指導を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生の一人ひとりの適性にあった進路決定ができるよう就職活動の支援を行うため「キャリアサポート室」を設置しており、キャリア教育、インターンシップ、就職ガイダンスを実施し、社会で必要な能力育成への支援等を行っている。 また、キャリアカウンセラーによる相談対応や各企業からの求人・会社案内・公務員受験案内、就職関連図書等の閲覧・貸出できるよう各種情報を取り揃えている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 身体的・精神的に学生をサポートする機関として「健康支援総合センター」を設置し、学生、担当教員、保護者からの相談に対応している。学生向け心理カウンセリングも提供し、公式 SNS を用いた各種健康に関する情報発信も行なっている。 また、「障害学生サポートルーム」を設置し、さまざまな障害のある学生が、修学上、不利な立場におかれることのないよう学習環境を調整し、一人ひとりの学生がその個性と能力を発揮できるようにサポートを行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： http://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g1902

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取組（群馬大学）

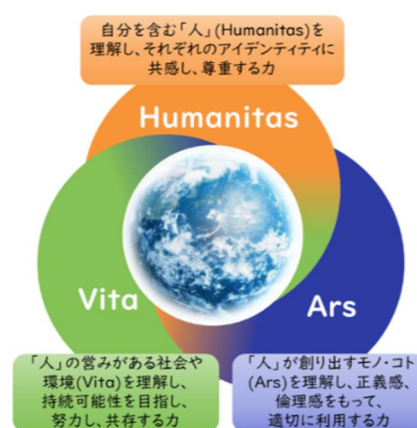
○全学的なデータサイエンス教育

情報数理及びデータ科学を中心とした教育方法を研究している「数理データ科学教育研究センター」が中心となり、2020年度から数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力の向上を図る機会の拡大に資することを目的として、全学部・全学科1年次の必修の授業科目「データ・サイエンス」を開講している。「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（MDASH）」において、リテラシーレベルおよび応用基礎レベル、応用基礎レベルプラスで認定を受けている。



○複線的・多面的な学び

分野融合的なテーマについて他学部生や留学生とともにディスカッションを行う授業や、留学生とペアで参加する群馬県内の地場産業体験などを経て、国や専門分野などの壁を越えてどのような場でも強くしなやかに活躍できる能力を身につけることを目的とした、特別専攻プログラム Interdisciplinary Program for Global Frontier Leaders (I-GFL) を2026年度4月から開始した。本プログラムは学部・学年を問わずどの時期からでも参加することができる。また全ての授業は英語で開講され、英語のみで修了でき、アクティブラーニング手法により実施される。



○文理横断型の教育

情報学部では、科学技術と人間社会の調和が求められる持続可能社会の実現において、情報を基軸とした文理横断型の教育により、Society 5.0を支え、IoT、ビッグデータ、統計的解析手法等のスキルを持ち、人文科学、社会科学、自然科学の知識を有した人材を育成している。3年次に履修するPBL（プロジェクト型学習：Project-Based Learning）の授業では、人文・社会と自然科学の諸学を通じて全体を統括できるような視点を養うとともに、実社会の課題に対してデータサイエンスの知識を用いて検討し解決策を提案する能力を養う。



(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F110110101713
学校名 (〇〇大学 等)	群馬大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人群馬大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		1031人（ 716）人	1015人（ 697）人	1052人（ 727）人
内 訳	第Ⅰ区分	213人	195人	
	(うち多子世帯)	(45人)	(33人)	
	第Ⅱ区分	102人	130人	
	(うち多子世帯)	(23人)	(29人)	
	第Ⅲ区分	92人	78人	
	(うち多子世帯)	(24人)	(23人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	142人	117人	
	区分外（多子世帯）	482人	495人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－
合計（年間）				1058人（ 728）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	27人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	32人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	—	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	—
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	—
訓告	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	15人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	100人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	100人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。